

余命2ヶ月、 何ができる？

銭湯・幸の湯を営む幸野家。しかし、父が1年前にふらっと出奔し銭湯は休業状態。母・双葉は、持ち前の明るさと強さで、パートをしながら娘を育てていた。そんなある日突然、余命2ヶ月という宣告を受ける。その日から彼女は「絶対にやっておくべきこと」を決め、実行していく。

- ✓ 家出した夫を連れ帰り家業の銭湯を再開させる
- ✓ 気が優しい娘を独り立ちさせる
- ✓ 娘をある人に会わせる

その母の行動は、家族からすべての秘密を取り払うことになり、彼らはぶつかり合いながらもより強い絆で結びついていく。そして家族は、究極の愛を込めて母を葬ることを決意する。



豪華キャストで贈る、かつて見たことのない驚きと感動に満ちた物語

“死にゆく母と、遺される家族が紡ぎ出す愛”という普遍的なテーマを、想像できない展開とラストにより、驚きと感動の詰まった物語に昇華させた本作。自身が手掛けたオリジナル脚本で商業映画監督デビューを飾ったのは自主制作映画『チチを撮りに』(12)が国内外10を超える映画祭で絶賛された中野量太監督。その脚本に「心が沸かされた」と出演を決めたのは、『紙の月』(13)でその年の主演女優賞を総なめし、名実ともに日本を代表する女優となった宮沢りえ。会う人すべてを包み込む優しさと強さを持ちながら、人間味あふれる普通の“お母ちゃん”の生き様をスクリーンに焼き付けます。母の死に向かい合い、

たくましく成長していく娘・安澄を演じるのは注目の若手実力派女優・杉咲花。そして頼りないけれどなぜか憎めない“お父ちゃん”にオダギリジョー、旅先で知り合った双葉の愛に触れ、人生を見つめ直していく青年・拓海を松坂桃李他、篠原ゆき子、駿河太郎、オーディションで選ばれた注目の子役・伊東蒼が新しい家族の物語を彩ります。



中野量太 監督プロフィールと『湯を沸かすほどの熱い愛』主な受賞歴



1973年生まれ、京都出身。日本映画学校の卒業制作『バンザイ人生まっ赤っ赤。』(2000年)が第1回TAMA NEW WAVEグランプリを獲得。SKIP シティ国際Dシネマ映画祭2012においてSKIP シティアワード及び監督賞を受賞し、SKIP シティDシネマプロジェクト第3弾として公開された『チチを撮りに』(12年)は、第5回TAMA映画賞最優秀新進監督賞のみならず、第63回ベルリン国際映画祭正式招待のほか、第3回サハリン国際映画祭でグランプリなど海外でも高い評価を得た。宮沢りえを主演に迎えた最新作『湯を沸かすほどの熱い愛』(16年)が全国公開中。

- 【新藤兼人賞】金賞 (中野量太監督)
 - 【第41回報知映画賞】作品賞、主演女優賞 (宮沢りえ)、助演女優賞 (杉咲花)、新人賞 (中野量太監督)
 - 【第29回日刊スポーツ映画大賞】主演女優賞 (宮沢りえ)
 - 【第38回ヨコハマ映画祭】日本映画ベストテン第2位、監督賞・脚本賞 (中野量太)、助演女優賞 (杉咲花)
 - 【第90回キネマ旬報ベストテン】日本映画ベストテン第7位、主演女優賞 (宮沢りえ)、助演女優賞 (杉咲花)
 - 【第31回高崎映画祭】監督賞 (中野量太)、主演女優賞 (宮沢りえ)、新進女優賞 (杉咲花)、新人女優賞 (伊東蒼)
 - 【第26回東京スポーツ映画大賞】主演女優賞 (宮沢りえ)、新人賞 (杉咲花)
 - 【第55回ブルーリボン賞】助演女優賞 (杉咲花)
 - 【第40回日本アカデミー賞】最優秀主演女優賞 (宮沢りえ)、最優秀助演女優賞 (杉咲花)
- <優秀作品賞など優秀賞6部門 (新人俳優賞含む) 受賞>



主催：TAMA 映画フォーラム実行委員会
お問合せ：080-5450-7204 (事務局直通)
042-337-6661 (永山公民館代表)
※上映当日は 070-5580-9071(会場)へ

Twitter で最新情報をフォロー @tamaeiga

Facebook ページに「いいね!」で参加 <http://www.facebook.com/tamaeiga>

